

令和2年11月

第493回 三水会便り

令和3年に向け活動計画を募ります

ぜひ参加したくなる例会・現地集会を!

日本山岳会の同好会連絡会議が10月19日開催されました。スケッチクラブやフォトクラブ、二火会、緑爽会など20強の同好会が参加、それぞれに活動状況を報告しました。どこも同じ。高齢化・会員減に加えコロナ禍で、あまり活発ではありませんでした。みんなで知恵を持ち寄り、実りあるクラブライフを持続したいものです。新年を迎え、そろそろ例会・現地集会の計画を立てなければなりません。ぜひ参加したくなるような計画を募集します。

登りたい山があるに違いありません。あきらめていませんか。コロナ禍は感染防止対策をしっかりやれば、工夫しだいで対応できます。高齢化・体力の衰えがあるも、もう一度挑戦してみませんか。リーダーをやれといっているわけではありません。実現できるよう、みんなで考えましょう。ピークをねらうばかりだけでなく、街中をウォーキングするだけでもいい。行動することが大切だと思います。山行担当の征矢幹事まで連絡ください。例会のほうも会場に制限がありますが、毎月続けます。頑張ります。高橋重・北口までご希望をお寄せください。

(高橋重)

11月の予定

■例会 18日 1:30～ 川俣俊一/南米パタゴニア紀行 氷河・冰山 強風吹きすさぶ地の果ての旅

パタゴニアは、地球の反対側の最も遠い地。気候的にも地勢学的にも植物学的にも、正反対の地と言っても良いのではないのでしょうか。この地に平成7年2月、今から25年前に訪れました。荒涼たる大地、そびえ立つ岩峰、氷河、そして吹きすさぶ強風の中の旅の強烈な印象、そしてたどり着いたアルゼンチン側の木造の宿に入ったときには、本当にホッとしたことを覚えています。小泉さんのお力を借りて、なるべく多くの写真を見ていただいて、地の果ての雰囲気味わっていただきたいと思っております。

(川俣)

■現地集会 29日 京急三崎口集合 雨天中止/前日連絡します 三浦半島・荒崎から長浜海岸歩き

日時/11月29日(日)、集合/10:00京急三崎口駅前。コース/三崎口駅(10:10発)→(バス30分)→荒崎→(徒歩30分)→荒崎公園(11:30)→昼食(11:30～12:30)→荒崎海岸→長浜海岸(14:00)→円徳寺→延寿寺→黒崎の鼻(14:30)→三崎口駅(15:00)→久里浜でJRに乗り換え→衣笠(16:00) ※衣笠/お太幸(046-851-0732)で反省会を予定しています。参加自由。費用/¥500(保険)+¥4200(反省会)=¥4700。交通費は各自負担。出欠を11月15日(日)までにメール・電話・ハガキ等でご連絡ください。ご参加の方は反省会の参加・不参加もご記入下さい。係/吉田正隆 uhi87591@nifty.com 携帯 050-7300-4314 (番号変わりました), 〒143-0016 大田区大森北 4-17-9

参考/京急品川(快特)→三崎口¥950 快特に乗れば約1時間10分で終点三崎口です。品川から10分ごとに快特が出ています。

◇三水会当面の予定

実施月	例会	現地集会
11月	11/18 川俣俊一/パタゴニア	11/29 三浦半島」担当吉田正隆
12月	忘年会/中止	12/21 厚木蔭尾山」担当征矢三樹
1月	1/20 大塚幸美/JAC-HPが大変身	新年会/鎌倉 担当増田・田中

1月の予定

■例会 20日 1:30～ 大塚幸美/JAC ホームページが大変身

会報「山」が創刊から全て閲覧できる。次いで「山岳」も

日本山岳会のホームページが大きく変わった。驚いた。月報「山」に掲載されてきた記事のすべてが 1930(昭和 5)年 10 月の創刊以降、個々に読むことができるようになった。創刊号にはトップに榎有恒、浦松佐美太郎の原稿を収録、三水会の設立は「一水懇親会」として 264 号に掲載されている。日本山岳会創立 120 周年記念事業として実施しているのだという。続いて機関誌「山岳」もデジタル化され、PDF で近く公開される。待ち遠しく思う。感動している。「山岳」のすべてが自由に閲覧できるなんて、これまで想像もしなかった。日本山岳会は豊富な人材が集まっているといわれている。創立以来、16,000 人を超える岳人が会員となって活動してきた。そのすべてが機関誌・会報に記録されており、実にさまざまな原稿・記事・写真などを通じて語り合えることができる。デジタル化されるということは、さまざまな活用が考えられるということでもある。実際に事業化を推進しているデジタル委員会の 大塚幸美委員長に、事業のすべてを話してもらおうと思った。快く引き受けてもらった。実際にホームページを操作しながらお話を聞く。



10月の活動報告

■現地集会 紅葉はちょっぴり早かった

西上州「中里諏訪山，上野カイト山」

10月の現地集会は 15～16 日、西上州上野村の「不二野家」で実施した。15 日は中里諏訪山(1207m)に登った。10:00 に JR 高崎線本庄駅に集合、志賀坂峠登山口へ 11:45 到着。天気は曇りだが、気温は丁度良かった。

群馬県には二つの諏訪山がある。ひとつは上野村の神流川(かんなかわ)上流にあり、今回の中里諏訪山は恐竜の足跡で有名な旧中里村の志賀坂峠県境にある。身支度を整え 11:55 出発。左の尾根コースを行く、40 分くらい登り稜線に出る。目の前に雲がかかった両神山の山容が現れる。盛りとは言えないが、ところどころ紅葉が見られた。山頂に 13:40 到着。下山は九十の滝方面のコースを通り、間物登山口に 15:00 に下りる。待っていた車に乗り、しおじの湯で汗を流し不二野屋へ。猪や熊のお肉を頂き、昭ちゃんのお酒まで頂いた。



10月16日(金)は、カイト山 1342.8m(白板山)。雨を心配したが、晴天になった。08:20 に白井地区休憩所前から旧十石街道を進む。気分よくどんどん進んで行ったら、街道のどん詰まりまで来てしまい道は崩落して先に進めない。川を渡渉したり反対側の尾根に登ったりと右往左往した後、コースを間違えたことに気が付き戻ることになった。結局、途中二股の道を降り、林道に出なければならなかったと分かった。もともと林道は入口近くで崩落して入れないと聞いていたが、軽自動車なら入れたようで、昭ちゃんは車で上の登山口まで行って、私達を待っていたようだ。従って私達は、今回はカイト山到着できず、来年の課題とした。あんなに説明してもらったのに、誰一人まともに聞いていなかったとは。お土産に沢山のジャガイモやサツマイモを頂き、いつもながら感謝です。来年もお会いできるのを楽しみにしています。参加 6 人/北口マリ子、児嶋和夫、高橋郁子、高橋重之、三井賢治、橋本雅子(幹事/橋本、報告/北口)

三水会便り 第 4923 回 発行 2020 年 11 月 1 日
東京都千代田区四番町5-4 日本山岳会三水会
便り担当 北口マリ子、山口延子、文責/高橋重之